



千葉大学医学部同窓会報 第116号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元ゐのはな同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
ゐのはな同窓会報編集部
〒260 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
ゐのはな同窓会
電話 (043) 222-7171 内線5026

新春に寄せて

ゐのはな同窓会会長 井出源四郎 (昭19卒)

頌春。会員の皆様には、ご健勝にて新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本ゐのはな同窓会も各位のご愛顧により、遂年の活性化が進みつつあります。そのまことに嬉しく、ご同慶の至りに存じます。深く感謝申し上げます。

さて、私は幼い頃から年末年始の時期を大切な「けじめ」と心得て、毎年生きて参りました。皆様方も夫々に同様の感慨をお持ちのことと思いますが、私の場合は殊更に生まれ育った環境が可成り強烈な印象を与えたことのためだと思っています。私の故郷は信州佐久という四方山に囲まれた盆地で、年末年始のこの時期は今日とは異なり峻烈な吹雪と凍てついた道路、家業は小さな地酒の蔵元。親父とお袋を先頭に十人兄弟姉妹という大家族。加えて蔵人を始めとする大勢の従業員の方々と、酒売りを中心に厳しい、忙しい真冬を生き抜くという幼少年時代の体験が、今日もお強烈な印象として脳裏に刻まれているからだと思っております。

今年も亦、この「けじめ」の時期に当って一年を回顧してみますと、脳裏を掠める様々なことがあります。良きこと、悪きこと、次々と想起されますが、悪いことの方が断りに多かったです。そんな中で唯一、私の心を揺さぶった感動的な出来事がありました。それは九月六日、マザーテレサの逝去昇天であります。それから数日後の深夜、NHKのマザー追悼の座談会の放映を見聞する機会を得ました。その中で映画監督の千葉さんがマザーの映像をフィルムに収めるべく、追求した時の感想を述べておられました。私は強い感動を覚えました。以下千葉監督が語られた感慨を私なりに傾聴したことの纏めとして、記憶を辿りながら書き記します。

ました。第二は、マザーの手であります。節くれ立ったその手、その指は農夫の手であり、熟練士の指であり、まさに鍛練の表徴としか表現しようのない強く、逞しい奉仕の権化とも言うべきものであります。そして第三こそ、彼女の表情であります。顔面無数に刻まれたその皺は、これこそ苦悩と歓喜の交錯に依つてのみ刻り出された歴史の「ひだ」としか言いようのないもので、両の目はきらきらと輝き何物にも代え難い宝石を彷彿とらしむるもので、又、両の頬と口許には絶えることのない微笑みが溢れるように湛えられ、これぞ「愛の泉」とでもいうのであります。うかが一言で言い表し得ないことながら、貧しき者、病める者、そして死を待つ人々の総てが「真の母」として慕い抱かれていたに違いない

と思わずには居られませんでした。と言うのであります。恐らく、この感動は私の生涯を通じて忘れ得ないものとなるのであります。

国の内外を問わず、昨今の世相は政治、経済、文化教育までもが濁り、うす汚くなりつつあるように思えてなりません。言うは易く行うことの極めて困難なこと知りながらも、新しい年の初めに当たって、清く明るく揺ぎない信念をもって生きたいものです。万分の一でもよい、マザーテレサの心にあやかりたいと念じつつ。

編集部からの要請により、取り急いでまことに拙い一文を綴りました。何卒意のあるところをお読みとり下されば幸甚です。

皆様方の益々のご健勝とご多幸を。そして本会の発展を願いつつ。

最終講義・記念式典のご案内

一、最終講義

○三方淳男教授

日時 平成10年2月3日(火)
午後2時30分

場所 医学部本館5階大講義室
演題 ホジキン病とその周辺

○新美仁男教授

日時 平成10年2月4日(水)
午後2時30分

場所 医学部附属病院第一講義室
演題 私の歩んだ甲状腺研究

○磯野可一教授

日時 平成10年2月6日(金)
午後2時30分

場所 医学部附属病院第一講義室
演題 癌治療の変遷

○記念講演

日時 平成10年3月14日(土)
午後3時30分

場所 医学部附属病院第一講義室
演題 文部省医学教育課長 木谷雅人氏

○祝賀会

日時 平成10年3月14日(土)
午後4時30分

場所 医学部附属病院第三講義室

平成九年度秋の叙勲者

小林 清氏 (昭17)

勲五等双光旭日章

竹内志郎氏 (専18)

勲五等瑞宝章

郡山春男氏 (昭21)

勲三等旭日中綬章

波田野基一氏 (昭23)

勲三等旭日中綬章

嶋村欣一氏 (昭23)

勲三等瑞宝章

実川 渉氏 (昭23)

勲三等瑞宝章

西 三郎氏 (昭29)

勲三等瑞宝章

梅村喜夫氏 (昭29)

勲五等瑞宝章

表彰

社会保険支払基金功績者

厚生大臣表彰

大久保春男氏 (昭28)

勲五等瑞宝章

瀬田勝雄氏 (昭32)

勲五等瑞宝章

堀江 武氏 (昭35)

精神保健福祉事業功労者

厚生大臣表彰

仙波恒雄氏 (昭32)

日医最高優功賞

神田 敬氏 (昭35)

千葉県知事表彰

森 博志氏 (昭31)

次回四金会のお知らせ

平成10年2月25日午後5時30分より、千葉駅ビル5階ペリエホールにて開催致します。

個々に御連絡致しますが、是非奮って御参加下さい。

会費は三〇〇〇円

ゐのはな随想(十一)

ゐのはな台二つの精神病棟

佐藤 竜三(昭和21卒)

今、医学部の本館になっている旧付属病院の北側に、たしか未だ学生の部活の控室に使われている筈の古い建物、あれは御存じのように旧精神科病棟である。ゐのはな台の戦前からの建物はこの二つになってしまったのではなからうか。

昭和17年秋、私たちが入学した頃、まだ真新らしい精神病院本館のかげにひそむようなこの建物の前を、何とはなしにそこに入院中の患者さんへの複雑な思いを込めてそと通ったものであった。戦中のその頃、将来この建物に深く関るうなどとは勿論思ふ筈はなかった。千葉の大空襲でも、病院本館と共にほぼ無傷で焼け残ったこの教室に私が入局したのは戦争終っての昭和23年だった。

この建物は、教室初代の松本高三郎教授が、関東大震災でそれ迄の木造の病棟がたかむいたため計画されたもので昭和2年竣工、後学長になられ昭和12年竣工の病院本館の建築にも参画された同教授にとって、

教室の建物もさすがに古び、精神医学の過去を語るにはふさわしいとしても、未来を語るにはふさわしいとはいえない状況だった。

新病院では、精神科は当初最上階に予定されていた由であるが、電波障害などの関連で母子センターと共に別棟になったらしい。初代松本高三郎教授の御息息胖教授が当時第四代の教室主宰者で、新病院建設に又深く参画されたのは奇縁ということであらう。病院の建築時、親父の時はデフレで予算が余って、贅の限りが尽くされたが、今度は石油ショックで予算が足りず全く何も出来なかったとよく語っておられた。両病院を較べると成程と思われる方も多いのではなからうか。

しかし新病院の精神科病棟もこれ又随分と先駆的なものとして、国の内外の方々に評価され、その後多く大

学病院の精神科建築の参考にされたものである。格子の全くない全解放の病棟、男女混合、そして広く高い吹き抜けなど、広い前庭と共に、当時の精神科の建築の常識をこえるもので、大学の研究的立場は、医療の空間のあり方にも及ぶべきであるなどという強弁がその病棟使用の認可には必要

であった。

旧病棟は幸いその堅実さを認められて学生のための施設として残されたが、隣接して建てられていた講堂は、残念ながら病棟の後庭に学生寮を建てる折、建築資材の運びこみ路をつくるためとりこわされた。隣に位置するいわゆる七天王塚の樹を傷けるのを避けての処置であった。この起源が実は韓国渡来の午頭信仰に由来するということは大谷名誉教授の御研究に詳しい。

昭和17年入学のわたしたちには、戦中戦後の学生時代のはな台での熾烈な思い出は語り出せばきりがなく何とも出来なかったとよく語っておられた。両病院を較べると成程と思われる方も多いのではなからうか。

しかし新病院の精神科病棟もこれ又随分と先駆的なものとして、国の内外の方々に評価され、その後多く大

学病院の精神科建築の参考にされたものである。格子の全くない全解放の病棟、男女混合、そして広く高い吹き抜けなど、広い前庭と共に、当時の精神科の建築の常識をこえるもので、大学の研究的立場は、医療の空間のあり方にも及ぶべきであるなどという強弁がその病棟使用の認可には必要



教授就任の挨拶

肺癌研究施設第一臨床研究部門

藤澤 武彦(昭42卒)



平成9年9月1日付けで

され、現在引き続き嶋田晃一郎教授が担当されています。このような内外に輝かしい伝統ある教室を担当させて頂くに当たり、その重責に身の引き締まる思いであります。

私は昭和42年に本学を卒業し、1年間のインターンの後、肺癌研究施設第一臨床研究部門に入局するとともに、大学院(肺病外科学)に入學しました。2年間の臨床研修の後、腐敗研究所(現真核微生物研究センター)において腫瘍進展と遊離アミノ酸の関連性に関する研究を行いました。

昭和49年から2年半の間、ロサンゼルス、City of Hope National Medical Center 外科の Robert H. Yonemoto 先生の下に留學し、乳癌、大腸癌、悪性黒色腫を対象に腫瘍免疫学の研究を行いました。帰国後は肺癌の腫瘍免疫学、特に宿主の抗腫瘍活性と切除術後免疫療法に関する研究を行い、肺癌宿主には自家腫瘍細胞に対する細胞傷

害活性が独立した予後因子であることおよびヒトリンパ球より抽出した lymphotoxin factor による免疫療法が肺内転移を抑制し、生存率を上昇させることを明らかにしました。

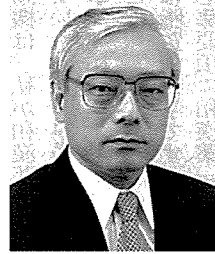
肺癌研究を目的として創設された研究施設における第一臨床研究部門(外科)としては当然肺癌の外科療法に関する研究が今後最も重要な課題であります。病因からみた自己免疫疾患に対する胸腺外科と肺癌の遺伝子診断・治療にも取り組むたいと考えております。病理研究部門並びに第二臨床研究部門と協調の下に、活性化された教室作りと諸先輩が宮々として築かれてきた国際性、独創性の高い研究をさらに発展させたいと考えております。

肺癌による死亡者数は男性では胃癌を凌駕し、悪性腫瘍で第1位となり、女性でも急速に死亡者数が増加しており、我が国研究施設には迅速かつ適切な対応が国民より求められております。今後は臨床で生じた問題点を基礎的に研究し、その成果を迅速に臨床の場にフィードバックする体制を確立

しなければならぬと考え
ています。そのためには肺
癌研究施設3部門での共同
研究はもちろんのこと、幅
広い基礎医学教室との連携
が不可欠であり、これらを
通してはじめて問題点の解
決が可能になるものと考え

小児外科学講座

大沼直躬(昭42卒)



平成9年9月1日付けで
高橋英世教授の後任として
小児外科学講座を担当させ
ていただくことになりました
。当教室は昭和51年12月
に高橋英世医学部附属病院
助教授(現名誉教授)を科
長に診療科として発足し、
その後平成2年7月に医学
部講座となりました。全国
の国立大学で小児外科学
講座はいまだ9大学にしか
なく、当然のことながら千
葉大学は日本の小児外科を
リードしてまいりました。
このような輝かしい業績を
もった教室を引き継がせて
いただけますことは極めて
名誉なことではありますが、
その責任の重さに身が引き

ております。
伝統ある千葉大学医学部
のさらなる発展のために全
力を尽す所存であります。
同窓の皆様のご指導、ご鞭
撻を心よりお願い申し上げ
ます。

縮まる思いであります。
私は昭和42年に本学卒業
後、聖路加国際病院で一年
間のインターンを経験し、
昭和43年に本学第二外科に
入局し、佐藤博教授の下で
外科学一般を修めるととも
に、高橋英世先生に師事し
小児外科学を専攻致しまし
た。昭和49年からは放射線
医学総合研究所病院部医務
課に勤務しつゝ、悪性腫瘍
に対する放射線生物学や化
学療法の研究を行いました。
昭和52年からは小児外科に
専従し、昭和52年から昭和
53年の一年間を米国インデ
アナ大学でリサーチフェロー
として神経系悪性腫瘍の化
学療法についての基礎的研
究を行ってまいりました。
教室の研究テーマは、新
生児外科、悪性腫瘍、肝・
胆道疾患、代謝・栄養、消
化管機能、画像診断・内視
鏡、泌尿器疾患など広範囲

にわたっていますが、私は
とくに悪性腫瘍と肝・胆道
疾患につき深く掘り下げて
まいりました。悪性腫瘍も
近年の集学的治療の進歩に
より治療成績の向上はめざ
ましく、ウィルムス腫瘍で
は90%の生存率です。しか
しながら神経芽腫は相変ら
ず50%以下の生存率で、目
下の研究のターゲットであ
ります。分子生物学的研究
によるN-mycの増幅、1p
欠失、DNA ploidyなどは
神経芽腫の予後不良因子と
して広く認められています。

これら予後不良因子を持っ
た症例に対し、教室では超
大量化学療法、術中照射、
全身照射、造血幹細胞移植
を併用し、従来よりすぐれ
た治療成績を上げておりま
す。肝・胆道疾患のうち、
胆道閉鎖症は最も難治性で
注目を浴びております。治
療の第一選択は肝門部腸吻
合術であるとの方針で研究
をすすめてまいりましたが、
過去15年間の胆汁流出率は
82%で、黄疸消失率は73%
であります。最近の成績は
さらに良くなっております

が、10年以上の長期予後
を考えますと、20〜30%の症
例は肝移植を期待すること
になります。
今後は母体搬送による新
生児治療、移植治療、人工
臓器治療など、外科的疾患
をもった小児の周りに医師
が集って行う治療が多くな
りその推進役を担う機会が
増えてくるものと思われま
す。病める子供達の幸せを
求めて、教室員ともども邁
進して行きたいと存じます
ので、益々のご指導ご鞭撻
の程お願い申し上げます。

構生理学研究所名誉教授な
ど多くの素晴らしい師に巡
り合い、その薫陶を受けた
ことは望外の幸せでした。
この伝統ある心研の更なる
発展を図ることが私の責務
であり、恩返しであると思
います。

最近、循環器内科学にお
いても多くの大学では分子
生物学、病因、病態、診断
に主力が注がれ、治療学が
おろそかにされる傾向があ
りますが、私の理念は基礎
医学を基盤とした患者のた
めのClinical Cardiology
を発展させ普及させること
です。具体的には循環器系
における分子生物学および
遺伝子工学的手法を用いた
研究や心筋細胞電気生理学
に関する研究を進め、その
統合を図り、更に遺伝子診
断、治療など臨床への応用
を進めることです。臨床面
では循環器疾患の診断、治
療の進歩は目覚ましいものが
ありますが、各々の領域に
おいて薬物療法のみならず
非薬物療法に至る最先端技
術を開発し、駆使し、そし
て評価し、日本のセンター
としての役割を果たしたい
と思います。更には臓器移
植法が10月16日に公布され
ますが、心研は国立循環器
病センター／大阪大学グル
ープと共に心臓移植実施施設

に指定されました。重症心
不全患者について医学的問
題のみならず多くの社会的
課題と取り組むことが急務
となっております。そのため
には、既述の基礎、臨床医
学のみならず、心身行動医
学、医療倫理学、医療経済
学、医事法学等を含めた学
際的な研究体制を確立して
いきたいと思っております。

東京女子医大ではテュー
トリアルという新しい教育
システムが導入され、私も
その教育委員を勤めて参り
ましたが、医学教育改革の
重要性を痛感しております。
学生、教室員に対して、内
科学、循環器内科学の教育
を通して自然科学のみなら
ず社会科学の視野を持って
患者を全人的に把握できる
循環器専門医を育成し、更
にその中から基礎医学研究
者を育成していきたいと念
じています。

東京女子医科大学附属日本心臓血管研究所循環器内科

笠貫 宏(昭42卒)



平成9年4月1日付けで
東京女子医科大学循環器内
科主任教授を拝命致しまし
た。そして本学附属日本
心臓血管研究所(以下心研)
の内科部長を担当すること
になります。心研について
若干説明を加えながら今後
の抱負の一端をのべてさせ
て頂きます。
心研は昭和40年、故榊原

仟先生が創設されたのが国
初の循環器センターであり、
昭和42年には初めてCCU
が作られ、常に循環器領域
でのリーダーシップを取っ
て参りました。循環器内科
に加えて循環器外科、循環
器小児科、小児循環器外科
の4つの講座から成り立ち、
総医局員数は三五〇名を越
えます。私の主宰する循環
器内科の医局員も約一七〇
名という大所帯です。しか
し、その規模の大きさと
いうより心研の特徴は、内科、
外科という講座の壁を乗り
越え、患者を内科医と外科

医共に診療に当たるとい
うシステムにあります。その
伝統は今なお脈々と我々に
受け継がれております。更
に全国から研究の公募を受
ける研究部を併設し、心研
のみならず日本中の多くの
研究者を育成したことです。
現在では国際分子細胞免疫
センターが新設され、更な
る充実が図られています。

私は千葉大学を離れてか
ら、故武見太郎元日本医師
会長から医事法学や医療経
済などの医療学を学び、心
研では故榊原先生を始め
循環器内科学講座初代教授
広澤弘七郎先生、第二代教
授細田達一先生、故松田幸
次郎東京大学名誉教授、故
入沢宏岡崎国立共同研究機

構生理学研究所名誉教授な
ど多くの素晴らしい師に巡
り合い、その薫陶を受けた
ことは望外の幸せでした。
この伝統ある心研の更なる
発展を図ることが私の責務
であり、恩返しであると思
います。

最近、循環器内科学にお
いても多くの大学では分子
生物学、病因、病態、診断
に主力が注がれ、治療学が
おろそかにされる傾向があ
りますが、私の理念は基礎
医学を基盤とした患者のた
めのClinical Cardiology
を発展させ普及させること
です。具体的には循環器系
における分子生物学および
遺伝子工学的手法を用いた
研究や心筋細胞電気生理学
に関する研究を進め、その
統合を図り、更に遺伝子診
断、治療など臨床への応用
を進めることです。臨床面
では循環器疾患の診断、治
療の進歩は目覚ましいものが
ありますが、各々の領域に
おいて薬物療法のみならず
非薬物療法に至る最先端技
術を開発し、駆使し、そし
て評価し、日本のセンター
としての役割を果たしたい
と思います。更には臓器移
植法が10月16日に公布され
ますが、心研は国立循環器
病センター／大阪大学グル
ープと共に心臓移植実施施設

に指定されました。重症心
不全患者について医学的問
題のみならず多くの社会的
課題と取り組むことが急務
となっております。そのため
には、既述の基礎、臨床医
学のみならず、心身行動医
学、医療倫理学、医療経済
学、医事法学等を含めた学
際的な研究体制を確立して
いきたいと思っております。

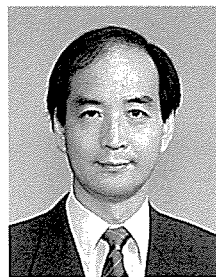
東京女子医大ではテュー
トリアルという新しい教育
システムが導入され、私も
その教育委員を勤めて参り
ましたが、医学教育改革の
重要性を痛感しております。
学生、教室員に対して、内
科学、循環器内科学の教育
を通して自然科学のみなら
ず社会科学の視野を持って
患者を全人的に把握できる
循環器専門医を育成し、更
にその中から基礎医学研究
者を育成していきたいと念
じています。

教 任
安田耕作氏(昭42)
獨協医科大学 越谷病
院泌尿器科(本学助教
授より)

助 教
小野純一氏(昭51)
千葉大学脳神経外科学
(同講師より)
矢野秀樹氏(京大昭56)
千葉大学高次発達生理
分野(鈴鹿医科学技
術大学より)

富山医科薬科大学和漢薬研究所臨床利用部門

浜崎 智仁 (昭46卒)



これらはアラキドン酸代謝を抑制することで、いろいろな作用を発揮します。特に我々の手がけたDHAの抗ストレス作用は最近注目を集めています。

平成9年6月1日より和漢研の臨床利用部門を担当することになりました。この研究所は富山医大がでる前より富山大学内にあり、古くより和漢薬の研究機関としてその名が知られていました。今まではMDは一人もいなかったようです。この研究所に応募した動機は、私が和漢薬をやっていたためではありません。事実、和漢薬のレポートなど数報しかなく、私の専門は脂質栄養学です。ただ、応募要項に和漢薬(天然薬物)の研究をするものがあり、私の研究するもの(わは天然薬物)と考え、カッコ内に注目すれば充分成立すると思えたからです。具体的には、魚油に含まれるエイコサペンタエン酸(EPA)やドコサヘキサエン酸(DHA)、生体内でも合成されるが、ある種のカビのミュータントが大量に産生するミード酸などで、

今後は究極の抗成人病和漢薬(血漿中フィブリノーゲンを現在の大過剰の状態からもう少し少なくするもの)の発見を目標の一つとし、さらに、リノール酸摂取過剰によるアレルギー、動脈硬化、西洋型の癌の多発を抑制するため、リノール酸に拮抗する油(EPA、DHA、α-リノレン酸)との適当な摂取比(n-6/n-3)を示す世界最強のデータを出したいと考えています。

今いる6階のこの部屋からは雪の立山連峰のパノラマが見えます。毎日こんな景色を見ながら働けるのは最高です。

各地ののはな会

だより

沖縄のはな会

平成9年度の沖縄県のはな会が、8月28日那覇市内のホテルで行われました。今回は、古謝景春先生(昭39)と吉井與志彦先生(昭44)の琉球大学教授就任、及び金城(赤嶺)マサ子先生(昭47)の沖縄県環境保健部次長就任の激励会も兼ね、26人もの会員の参加がありました。古謝景春先生



は、心臓血管外科が御専門で琉球大学第二外科助教授より第二外科教授へ、吉井與志彦先生は、筑波大学脳神経外科助教授より脳神経外科教授へそれぞれ就任されました。金城マサ子先生は、あいにく外国の視察団の御接待で欠席されましたが、琉球大学医学部の創設に尽力されました初代附属病院長の小張一峰先生(昭15)がはるばる船橋市より御出席され、また吉井先生の奥様の(藤原)田美子先生(昭44)も御同伴され、本会としては久々の慶事を祝い、大変盛況でした。

沖縄県のはな会は、昭和46年に発足し、長田紀春会長(昭17)の下、年一回開催しています。会員は45名を数えるまでになりました。遠く千葉から離れてはいますが、結束力は大の大学のどの同窓会にも負けないよう頑張っています。事務局は、長年琉球大学放射

埼玉のはな会

残暑きびしい平成9年8月24日(日)埼玉支部総会が大宮のパレスホテルで開催された。支部長の水間正冬先生(昭17)以下45名が集合。いちはん若い同間は平成7年卒の土屋博君で、実に半世紀間の同門が一堂に会したわけである。

ちなみに講師の北原宏教授(放射線部昭43)、栗山喬之教授(肺癌研究施設呼吸器内科昭43)は、お二人とも水間先生が卒業された年にお生まれになったとか、年月の過ぎ去ることの早さをあらためて実感した。

総会は、過去一年間の物語者への黙祷で始まった。佐藤清松先生(大15)高野典先生(昭15)定形千春先生(専19)高木紹夫先生(昭23)丸山徹男先生(昭40新潟大卒賛助会員)



以上の方々が平成8年6月1日から平成9年6月15日まで亡くなられた。講演会は、北原教授の「最新の画像診断について」・栗山教授の「学内事情について」で、最近のものは台の様子や若い教授を中心に大学が21世紀の医療人の育成という大きなテーマを抱えて前進しつつある様子をつかいたい大変心強く思った。来年は石井邦夫先生(昭26・内科)の幹事で浦和で開催の予定。(松山迪也(昭35)記)



中京るの は な 会

平成9年7月23日午後6時30分より名古屋 Hilton ホテルの3階、中国料理の「王朝」で同窓会を行った。

「中京るの は な 会」は愛知、岐阜、三重の中部三県の千葉大学医学部卒業生の同窓会で、約50人の会員がおります。会員の高齢化を嘆いておりましたが、今年

は、平成9年の卒業生をはじめ、徐々に新人、中堅の参加が増えておりますので、今後が期待されます。今年の慶事は、名古屋市立大学整形外科、松井教授の病院長就任であります。

当日は、松井教授のご挨拶、長老の加藤先生の乾杯のご発声で開宴した。最近の医療情勢、世相、遠く離れた母校の状況、はやりのインターネットなどなど、楽しく語り合い時のたつことも忘れる3時間であった。当日の出席者は、



加藤敏忠(昭16)、小林清昭(昭17)、鈴木多之助(専24)、多那村至(専25)、米本昭彦(昭29)、永田竜司(昭35)、松井宣夫(昭38)、市川(蛭田)清子(昭41)、岩間汪美(昭43)、吉田行夫(昭44)、愛知医大第二解剖学教授、伊藤文二(昭45)、三浦利重(昭46)、山口英明(昭50)、森田(石井)弘之(昭56)、三好幸次(昭63)、亀山裕行(平2)、黒野健司(平9) (岩間汪美記)

クラス会

白 兎 会 (昭和17卒)

昭和17年9月卒業の我がクラスは、卒業のときクラス会名を「白兎会」と名づけ、「白兎」というクラス誌を創刊した。戦後、次々におちいてきてから、最年長の宝積栄君を会長にして、春には総会、秋には例会を開催してきた。幹事は東京在住の大村、浦田、佐久間、長谷川(安)、木村、藤村の諸君が相次いでつとめ、千葉では数馬君が骨折してくれた。昭和45年から10年間は



埼玉在住の遠藤、水間がひきつぎ、昭和55年からは現在まで水間がつとめてきている。平成4年2月に宝積君が亡くなったので、以後は水間が会長兼常任幹事となり、内田君が幹事として協力して現在に至っている。

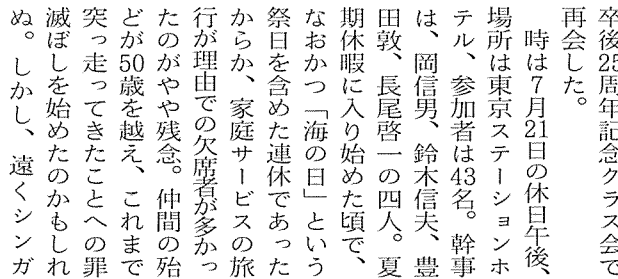
卒業のときは79名だったが、40名が亡くなり(うち戦死は11名)、現在39名(うち3名は音信不通)になってしまった。白兎会としては年会費を5千円集めて、慶弔に関する規約などつくって会を運営してきた。本年は丁度卒業55周年になるが、みんな80歳前後の高齢になったので、この機会に「白兎会」としての行事は終りにすることにした。

平成9年の総会は去る4月20日に東京ステーションホテルで開催した。級友16名と故人の夫人4名の計20名が出席し、議事終了後記念撮影を行い、昼食をとりながら約2時間楽しい歓談の時を過ごした。そして、今後は有志によりクラス会だけは続けてゆくことにした。なお、本年7月末に「白兎」第7号(卒業55周年記念号)を発行することにしている。

四 一七 会 (昭和47卒)

われわれの仲間にとって平成9年は、卒後25年すなわち4半世紀目という記念すべき年である。昨年は矢野明彦、鈴木信夫がそれぞれ本学の寄生病学教室、第二生化学教室の教授となり、今年は勝呂徹が東邦大学整形外科学教室の教授となった。更なる活躍を互いに期して別れた20年目のクラス会から丁度5年、約束通り皆各分野でさらに発展し、卒後25周年記念クラス会で再会した。

時は7月21日の休日午後、場所は東京ステーションホテル、参加者は43名。幹事は、岡信男、鈴木信夫、豊田敦、長尾啓一(昭47)の四人。夏期休暇に入り始めた頃で、なおかつ「海の日」という祭日を含めた連休であったからか、家庭サービスの旅行が理由での欠席者が多かったのがやや残念。仲間の殆どが50歳を越え、これまで突っ走ってきたことへの罪滅ぼしを始めたのかもしれない。しかし、遠くシंगा



冬、児嶋喜八郎、吉江俊夫、松永幹、後列左より高橋和夫、浦田久、西沢英三郎、下山賢次、小林清、中村泰

治、森島猪二、藤村満寿夫、内田成和、(このほか佐久間武司夫人出席) (水間正冬記)

ポールからコウ・エン・スワンディ、沖繩から金城(旧姓赤嶺)マサ子の両君が参加してくれたことには一同感激。

四一七会の名称由来は、単純に「昭和41年入学47年卒業までの間に同じ学年であった者が集まる会」ということである。大学入試は高校の教育課程が旧課程から新課程に変わって初めての試験、在学中は大学紛争のまっ只中。47年3月中旬ストライキ解除後直ちに卒業試験、そしてその数週間後の医師国家試験はその年からマークシート方式に変更され出題傾向が全く不明。なにかにつけてエポックメイキングな学年であった。

さて、当日の会は豊田の名司会で進められ、矢野、鈴木、勝呂へのお祝いと彼らの挨拶、さらに全員の近況報告に入ると爆笑の連続。体型、頭髪、皮膚の変化は



あるものの笑顔と話口調は昔のままであった。話の内容は家族のことからグロイバルな医療観まで多岐にわたったが、ストライキで卒業式がなかったのやり直そう、次はシंगाポールで開こうとの提案は、一応検討事項となった。3時間はまたたくまに過ぎ、その後は会の余韻に浸りつつ三々五々グループを作り散会した。次回は五年後、さらに多くの仲間が集えることを期待する。 (長尾啓一記)

もぐら会
(昭和23年)

さきの大戦中、防空壕に出入りするも、何れは天空に飛昇すべき心意気より土竜会を名乗る面々、集いしもの32名。極めて便利とて東京駅ステーションホテル地下「さつき」にて平成9年9月20日午後4時、久闊を叙し合う。

幹事は神奈川グループ。大津、平岡、吉田(充)、三君司会のもと、先ず、本年6月、8月に逝去された高木紹夫、野上良介両君の冥福を祈って黙祷。遠路参加の岩間君の音頭で、お互いの健祥を祝して乾杯。

余り酔わぬ内に、吉岡君より会計報告、剰余金は来年の卒後50年記念会に使用すべき提案あり、一同諒承。吉田(亮)、萩原両君より大学事情、医学部長、病院長、教授交代など報告あるも過ぎし時の流れを思うの



み。

以後は、三々五々の懇談の内容は自ずと来年、吉田亮君主宰、千葉グループで行われる記念クラス会の事となる。

大学医学部、病院、市内見物などを希望する者あり、絵画、書、写真、短歌、俳句など総合芸術展? など、吉田君を中心に企画すべしとの申し入れあり。とすれば早めに案を練り、衆知すべきなので、吉田、吉岡君に積極的に提案するよう、また本日不参加の者にも知らせるべく申し合わせた。また、教えを受けた教授各

位は既になく、お世話になった講師、医局員からお招きしたするなど、昔語りが交々かわされた。それぞれ一病息災か、意気軒昂、時の経つのを忘れ話し合う。時に限りあり、来年の「もぐら会」の盛会を互に約しつつ

千葉大学医学部同窓会
(昭和45年)

一九九七年七月十二日(土)午後5時より、帝国ホテルにおいて昭和45年卒業の同窓会を開催した。前回、3年前に幕張のプリンスホテルで開催して以来のことであ

った。磯野可一先生(二外教授)、大谷克己先生、桑田次男先生を招待したが、大谷、桑田両先生はご都合が悪く、磯野先生だけが出席して下さった。磯野先生の挨拶が、大学の民営化問題、教授の任期制導入などのお話で、45分余にわたり、大学の授業をサポートするための補習講義の様相を呈した。乾杯の後、宴会に入り、学生時代のスライドを映して往時を偲んだり、中野雅行君の県展に入選した版画のスライドを楽しんだりした後、近況報告になった。小俣政男君の東京大学教授としての話、堺常雄君の聖隷浜松病院の院長としての

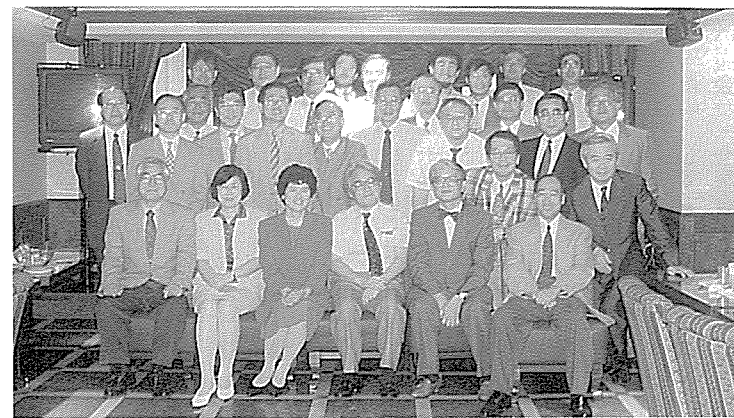
午後6時散会した。出席者氏名 有賀光、井上正士、伊東和人、伊藤力、飯島亨、一色重義、岩間定夫、上野高次、大津饒、木村滋、黒須吉夫、斎藤嘉一、多賀谷譲、高村良平、寺田俊郎、戸沢澄、奈良四郎、

中島元、西村文夫、野坂謙二、萩原弥四郎、林易、平岡真、藤井日出男、堀江昌平、前田裕、松山茂、宮崎隆次、吉岡宏三、吉田亮、吉田充、吉田作(以上32名)(伊東和人記)

経営の上の苦労話、榎本正満、純子夫妻の岩国市での開業の話など大勢の話が披露された。その後、銀座東芝ビル8階(数寄屋橋阪急ビル)の銀座クルーズクルーズに場所を移し、二次会を楽しんで、10時半に盛会のうちに散会した。

中野雅行、中野義澄、中山章、永岡喜久夫、新倉春男、野口健太郎、野田宏子、橋本英明、花輪孝雄、林泰、古川隆男、堀内正敏、宮蘭千代子、向井将、湯原幹男、済陽高穂、渡辺義二(以上31名)(林泰記)

次回(3年後に渡辺義二君、古川隆男君、武久徹君らの幹事のもとで行われることになった。出席者 磯野可一(二外教授)、朝比奈信武、新井裕二、伊藤文一、家里憲二、榎本正満、石場俊太郎、榎本純子、小俣政男、堺常雄、鈴木盛一、高橋長裕、武久徹、天神弘尊

爾久会
(昭和29年)

我々昭和29年卒のクラスは、最近毎年のように千葉と近県を交替に廻ってクラス会を行っております。平成8年には写真・文集を出版し、普段音信の無かった級友の消息も知れて大変有意義でありました。

今年は群馬県が2回目の当番に当たりましたが前回が伊香保で行いましたので、今回は水上で行う事にし、それも駅近くの雑踏を避けて新緑鮮やかな水上高原プリンスホテルで行う計画を立てました。5月10・11日は幸にして好天候に恵まれました。10日は午後7時開宴。鹿山幹事の司会により、島崎淳幹事の挨拶、遠来の富岡清海の乾杯で始まりました。アトラクションとして昔懐かしいドイツ歌曲とピアノ演奏が二人のお嬢さんにより行われ万雷の拍手を受けました。

酒が進むにつれて寮歌祭をやるという事になり、出席の各旧制高校が登壇して大いに氣勢を上げて若さに陶酔した一夜でした。更に有志がカラオケバーに行き、閉店で追い出されるまで愉快地歓談しました。

翌日は、ゴルフ組と観光組に別れて行動しました。ホテルの直ぐ回りにコースが3つ有り、8人が2組に別れてスタートし、一方観光組はマイクロバスで23人が参加しました。幹事の心配はこの辺はダム位しか見所が無い事でした。先ず月夜野のびーどろパーク(上毛クリスタル)



を訪れ、ガラス細工の製造工程を見たり、色鮮やかな作品の数々を鑑賞しました。その後、湯掛曾まで北上し昼食の山菜料理と蕎麦を賞味しました。宝川温泉に行く予定でしたが谷川の天神平へ行きたいとの婦人連の申し出により予定を変更し、此れが正解でした。普段は混雑してロープウェイは長蛇の列ですが、この日は幸運にも待たずに乗れ、更にリフトに乗り継いで、山頂に達する事が出来ました。谷川近辺の山脈が残雪に輝いて三六〇度の素晴らしい眺望を満喫し、ホテルに帰りゴルフ組と合流しました。今回は天候にも恵まれ級友の元気な顔に会えて本当に楽しいクラス会でした。

来年も元気に再会する事を約して解散しました。

参加者 有馬道男夫妻、飯田宏美、岡野正、鹿山徳男夫妻、草柳芳昭、窪田叔子夫妻、河野保久夫妻、佐藤忠夫夫妻、柴田千葉男、富岡清海、鈴木日出和夫妻、島崎淳、中島哲二夫妻、西三郎、根本幸一夫妻、羽生富士夫、長谷川透夫妻、樋口道雄、森島邦夫、福田恵司夫妻、山田兼雄、渡辺四郎、和田房治の34名。

幹事は長谷川透、鹿山徳男、根本幸一（根本幸一記）

昭和57年卒クラス会 (昭和57卒)

昭和57年卒業のクラス会を一九九七年七月二十日（日）に、ホテルニューオータニ幕張にて開催した。57年卒クラス会とは、もとより二〇〇〇年におこなう予定であったが、我がクラスから2人の千葉大学医学部の教授が誕生したのを祝う目的で、今回千葉大学内にある同級生の有志を中心に行うことになったのである。従って、主賓は第一微生物学教室教授に就任した白澤浩教授と歯科口腔外科教授に就任した丹沢秀樹教授である。

また、来賓として、ゐのはな同窓会会長井出源四郎先生・第一微生物学教室前教授清水文七先生・歯科口腔外科名誉教授佐藤研一先生にご出席いただいた。三連休の最中にも関わらず、40人が出席した。



まず、清水先生と佐藤先生のご挨拶に続き、井出先生に格調高いご挨拶をいただいた。引き続き井出先生に乾杯の御発声をお願いした。その後、同級生を代表して下山直人君・佐野信昭君が学生時代の思い出を話し、その後白澤・丹沢両教授が就任挨拶を行った。その後は、久しぶりの再会に、和気藹々と楽しい語らいの時間を過ごした。次回は、予定通りに二〇〇〇年にクラス会を行うことを約して、散会した。

(山本達郎記)

三七会 (昭和37卒)

還暦のお祝いを兼ねて、平成9年6月14・15日と三七クラス会をいつもより派手に開催しました。旧岩崎財閥の別邸だった伊豆長岡温泉の名園を選び、17名が集まりました。遠い事、一泊の事が参加人数に響いたかも知れません。午後3時に集合、それでも温泉と欲談の時間が足りないようでした。折角の高級会席料理なので、「ワイガヤ」の宴会を止め、少人数に分かれて各「離れ」で温泉の気分と味をゆっくり堪能しました。これで各自充分気が養われたようです。

9時からパーを貸し切りやつと全員集合、賑やかに盛り上げました。話の邪魔にならないようにカラオケは30分だけ。足りない人は部屋で続きを楽しみ、誰も外には出掛



けませんでした。出席者の中には、八千代市医師会会長、静岡県医師会会長、青森県医師会会長、青森県医師会副会長、青森県医師会事務局長、NHK枕博士が並んでいました。

積もる話、医学、医療、医政の話は当然ですが、小さな話にはこんな事もありました。

◇7回乗り継いでどうにか着いた。

◇今回温泉に7回入った。

◇ホールインワンを5回した。

◇骨折を11回した。

◇パリのフォーションで12

万円のワイン（ロマネコンチ）を買って帰り自宅に飲んだ。

◇全日本医師会大会で60歳以上でBクラス優勝。毎朝6時から一時間半の世話をしている。

アルコール経費は一人九七三円でした。この評価

クラス会 (昭和33卒)



6月の第一土曜日定例の医学部昭和33年卒のクラス会が東京ホテル・ニューオータニで行われた。今回初めての趣向で夫婦または娘さんの同伴が柏戸、椎名の両幹事より呼びかけられ男性軍7名が奥さんを同伴された。さらに女性軍同級生が4名参加し、何時になく華やかな会となった。写真撮影では加えて当日のイベントに呼んだオペレッタ歌手、ピアノも入ってもらったのでご覧のように明るい笑顔笑顔の集合写真となった。

遠方からは久留米からの谷川章子さん、富山からの

は今後の課題です。翌日のゴルフには3名、少なくなりました。6名が船原峠観光へ、名物の干物・塩干をお土産にして帰宅の途につきました。次回は茨城方面での希望が多く、岡崎君にお願いしました。

(中山博記)

辻陽雄君を迎え他に新井礼子、小林みち子、森島尊子、石田三郎、今留淳、大槻一雄、小形岳三郎、小野寺美津雄、柏戸正英、近藤洋一郎、椎名益男、嶋田俊恒、高木学治、武田從信、土井偉登、東郷七百城、長崎護、檜垣有徳、松岡祐之、御子

柴幸男、吉松彰の諸君と総勢23名であった。幹事椎名君は此の分野には造詣がふかく日本では数少ないオペレッタ歌手でソプラノの嶋崎裕美さん、ピアノ御邊典一さんと呼んで下さり生の歌曲を楽しみながらのディナーはなかなかおしゃれで女性性が三分の一を占める此の会にはびたりであった。ちなみに曲目を紹介すると「オペレッタ「春のバレー」より今日も楽しいことが、二、オペレッタ「カイザリン」より我が愛するシェンブルンよ、三、ウィーン、わが夢の街、四、アンネン・ボルカ、五、ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」よりエーデルワイス、六、ミュージカル「マイ・フェア・レディ」より踊り明かそう、以上。なかでもエーデルワイスの全員での合唱は2回、3回とつづいて学生時代に戻った様でなかなか終わらなかった。最近我々の上のクラスではちばちば夫人同伴のクラス会の話をよく聞くがどうも旦那の飲みすぎのお目付けなどの健康上の理由が主のようである。我々は少なくとももっとまじな理由で今回のように集まるのもいいのではないかとおもう。

(御子柴幸男記)

三 一会 (昭和31年)

「光陰矢の如し」と云いましうか、卒後41年目、三一会も回を重ね、平成9年の今年、開業医の方々も開業して、およそ30年、勤務医の一番若い人も65才の定年を迎え、31年卒・同級生にとって、高齢化社会の中で、嫌でもこれからの「生き方」を考えなければならぬ、「節目」と云うべき年を迎えることになった。今年も例年の如く7月下旬の土曜日、

君、開会挨拶・香田真一君(幹事代表)で始まる。物故者(大島一浩君)の冥福を祈り黙祷、山口豊君(肺研・名誉教授)より庶務会計報告、次回幹事依頼・決定後、待ってましたとばかり白井俊雄君(山形大名・警教授)の音頭で乾杯、宴会に入る。10分もしない内にあちこちのテーブルから楽しい大きな声が始まる。アルコールの量とともに、また「打ち上げ花火」もこれに加わり益々にぎやかさを増す。

恒例の3分以内の全員による「近況報告」は、意外に、皆さん若い証拠なのか、お嫁さん、孫についての楽しくなるような、面白い話は殆どなく、「あくせくしない、適当に、のんびりと今〇〇〇しています。」との型どおりの「現状報告」話が多く、老年に向かって、うきうきするような、嬉しくなるような「夢の話」が聞かれないのを多少残念に思いながら皆さんの近況話に聞き入った。9時近く、小川道一君が「皆さんに会

いたい」と療養中とは思えない元気な様子で出席、盛大な拍手で迎えられ、和気藹々益々盛り上がる。あつと云う間に閉会予定の9時が過ぎ、あわてた格好で、森博志君(幹事代表)より閉会の挨拶が行われ、皆元気で、来年の再会を約して閉会となる。来年は、もっと多くの出席を期待し、「こんな風に：生き生きと老年を楽しんでいます。」との報告を心待ちに、三一会報告と致します。(高野昇記)

今年で22回を迎えたものの美術展は10月14日から20日までの7日間改装された銀座ギャラリーひまわりで開催された。新入会員に牧豊昭(24)、辰濃治郎(34)、渡邊栄三(平9)の3名を迎えて22名の会員と2名の白鯨社員計24名の書、油彩及び水彩画36点が展示された。折からの好季節に加えて銀座祭りが重なり、来会者は例年になく多く、自由な個性溢れる作品群に対する好評を耳にした。18日会場に

全員が集まり、1年ぶりに再会を祝った後、相互の作品について熱心な会評を行った。パーティは資生堂4丁目店に19名が参加、ほとんど60歳の年齢差のある同窓が入り乱れて着席、美術談義や医学や雑学論に時のたつのを忘れて盛会であった。るのほな美術展事務所 〒169 東京都新宿区高田馬場 一(二五)二六 石谷医院内(石谷治彦(昭24) TEL 〇三三三三〇〇七八 FAX 〇三三三三〇〇二五三

第22回るのほな美術展の御報告



第22回るのほな美術展会員出品作品

1997.10.14~20 ギャラリーひまわり・銀座・東京

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| 1 酒井 忠昭 (昭42) | 公園のレストラン 10M. 坂の街. 6 F 油彩 |
| 2 斎藤 篤 (昭34) | 人物 20号 裸婦 10号 油彩 |
| 3 石谷 治彦 (昭24) | ひまわり10号 水彩 花火ーパリ10号 水彩 |
| 4 大木 勲 (昭38) | 結城城趾ー昼下がり10F 油彩 |
| 5 長谷川 鎮雄 (昭35) | 風景 15号 油彩 |
| 6 宮下 久夫 (昭38) | 伊奈谷 9号 水彩 |
| 7 山川 晋吾 (専24) | 街かどにて 15P 油彩 |
| 8 今井 力 (昭22) | 冬の安曇野 20P 油彩 |
| 9 井上 通 (専24) | 花 10号 女優 10号 水彩 |
| 10 大村 光 (昭17) | ひまわり 8 F ペネチア風景 10F 油彩 |
| 11 仲村 長正 (昭29) | 瑠璃光寺 10F 油彩 |
| 12 斎藤 英一 (昭16) | 白馬山麓の村 15F 洋画 |
| 13 長尾 透 (昭16) | 雪どけの山 F 20号 油彩 |
| 14 神山 英明 (昭22) | しぼりの浴衣 15号 朝の榛名山 8号 油彩 |
| 15 斎藤 宗寿 (昭16) | ばら 10P ひまわり 8 F 油彩 |
| 16 加瀬 幸雄 (昭22) | 鳳凰来儀 50×50 書 |
| 17 山口 庚児 (昭31) | 印度の貴夫人 15F 朝の漁港 10P 油彩 |
| 18 野口 真利 (昭40) | パリの街 10F 静物 12F 油彩 |
| 19 川村 孝子 (昭36) | 人物 10F 静物 20F 水彩 |
| 20 牧 豊 (昭24) | NEGOTIATION 20F 南の海 20F 油彩 |
| 21 辰濃 治郎 (昭34) | フイレントツェ 30F 横浜教会 10F 油彩 |
| 22 渡邊 栄三 (平9) | ASPHALT JUNGLE 12F |
| 23 鈴木 正人 (学生6) | 風景 10F |
| 24 加賀谷美穂子 (学生5) | ニューヨーク ニューヨーク 15F |

不出品 伊藤行男・神作憲司・内田成和・山口宗彦・関田(杉野)恭子・阿部浩次・島田哲男 (順不同)

『千葉大学真菌医学研究センター』の
発足にあたって

センター長 宮治 誠 (昭38卒)



平成9年3月31日「真核微生物研究センター」はその使命を達成し新たな研究施設「真菌医学研究センター」として4月1日付けで10年

時限として発足致しました。本研究センターの目的は、病原真菌の菌学、及び真菌感染症と真菌中毒症の成因、及び制圧に関する研究を遂行することにあります。

さて微生物はウイルス、細菌、真菌の3つの大きなグループに分けられ、これら微生物を用いた研究は生命科学の発展に大いに貢献しており、本研究センターは真菌研究の分野での重要な役割が期待されているのです。しかしながら現在まで、真菌研究領域は他の2分野に比べ少なからぬハンデがありました。それと云うのも、ウイルスや細菌の分野ではそれぞれ複数の代表的な国立の研究施設がありましたが、真菌研究の分野ではそれを統括し、総合する研究施設が日本には無かったのです。真菌医学

研究センターはその名前が示すように医学領域に関連する研究を主に行いますが、規模は小さいとはいえ全国共同利用施設として、真菌を基礎から応用分野まで総合的に研究する日本で唯一の組織なのです。

主な研究課題を挙げると、一、現在エイズを始めとする免疫不全患者に発症する日和見真菌感染症は深刻な問題となっており、その対策が急がれていること、二、外国との交流が頻繁になり日本に存在しない危険性の高い真菌症(輸入真菌症)の対策に迫られていること、三、微生物の保存事業が遺伝子資源としてその重要性が増大している現在、これまで維持発展させてきた病原真菌・放線菌の系統保存を拡大充実に、名実共に世界を代表する病原真菌の保存施設に育て上げる使命があること、四、日本において真菌を総合的に研究する唯一の研究施設であり、菌学の分野で中心的な役割を果たす責任があること、特に真核生物のモデルとなる真菌を用いた遺伝子解析の推進、真菌感染機序の解明、かび毒の発癌機構の解

析により、遺伝子工学や遺伝子治療への発展、日和見真菌感染の診断・治療及び抗真菌剤の開発等の成果が期待されます。

真菌医学研究センターは研究部門として病原真菌研究部門と分子機能研究部門の2大部門からなり、それぞれの部門は3研究分野から成り立っています。運営はセンター長を議長とする協議員会(教授会に準ずる)によりなされ、また研究計画、事業計画、共同利用などについて審議するため学内外の有識者を加えた運営協議会が置かれています。

本センターは全国共同利用施設であり、その任務を

いま、「JUN」がホストに語られる

国立精神・神経センター 精神保健研究所

所長 吉川 武彦 (昭36卒)



「校内暴力・家庭内暴力」が落ちつきを見せたこの4、5年、「登校拒否・不登校」「いじめ・自殺」が子ども

に関わる問題のトピックとして語られています。95(平7)年1月には阪神・淡路大震災があり、被災地はもとより学校でも「こ

推進するため学内外及び、国外の研究機関に協力を仰いでおり、学内では医学部、看護学部、薬学部の関連講座と協力体制を組み、また

大学院は医学研究科を担当し、かつ薬学研究科及び、自然科学研究科を兼担しています。加えて国内の大学や研究者と共同研究を推進し、特に国外の研究者との共同研究は、ブラジル国サンパウロ州にあるカンピナス大学医学部に共同の研究室を準備し、エイズ患者をはじめとする減抵抗性宿主(compromised host)に発症する日和見真菌感染症の共同研究を行います。

本学における熱帯医学の研究

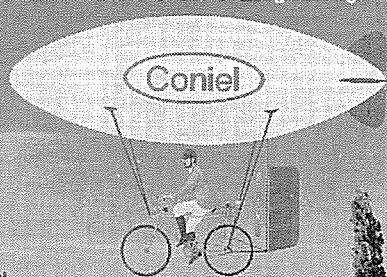
究拠点としての役割が期待されます。

また真菌医学研究センターは、文部省よりCenter of Excellence(COE)に指定されており、上記の様々なプロジェクトを遂行する上で強力な支援となるでしょう。今後長いようで短いこの10年間にセンターの職員一同はその努力を加速させ、名実共に本センターを千葉大学が誇りうる世界のセンターとして揺るぎない地位を築くべく努力するつもりです。今後ともよろしく御支援御鞭撻の程、御願ひ申し上げます。

「なぜ、信者がなかなか教団から離れないのか」という疑問をもちました。ここへきて、「こころのケア」に関心を寄せるだけでなく「こころの育ち」を見直す考えがでてきました。

精神衛生法が精神保健法になり、95年には「精神保健福祉法」になりましたが、精神障害者のリハビリテーションが地域ケアの方法として語られます。そして、この地域ケアを支えるのが市民だといわれるようになりました。その市民の「こころの健康」を守ることも、この精神保健福祉法の役割になったのです。97(平9)年五月の「神戸殺傷事件」は、こころの健康が深刻な

問をもちましたし、さらに

For life long therapy
Coniel Slow onset & Long lasting

【効能・効果】 高血圧症、腎実質性高血圧症、狭心症

【使用上の注意】

1. 一般的注意

- 1) カルシウム拮抗剤の投与を急に中止したとき、症状が悪化した症例が報告されているので、本剤の休薬を要する場合は徐々に減量し、観察を十分に行うこと。また、患者に医師の指示なしに服薬を中止しないように注意すること。
- 2) 本剤の投与により、まれに過度の血圧低下を起こすおそれがあるので、そのような場合には減量又は休薬するなど適切な処置を行うこと。
- 3) 降圧作用に基づくめまい等があらわれることがあるので高所作業、自動車の運転等危険を伴う機械を操作する際には注意させること。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

- 1) 心原性ショックの患者[症状が悪化するおそれがある。]
- 2) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人[動物実験にて胎仔毒性、妊娠末期の投与による妊娠期間・分娩時間の延長が報告されている。]

*「用法・用量」、その他の「使用上の注意」は製品添付文書をご参照下さい。

高血圧症・狭心症治療剤(特異性Ca拮抗薬)

コニール錠 2・4・8

Coniel Tablets
塩酸ベニジピン製剤2mg・4mg・8mg錠

薬価基準収載



製造発売元

【資料請求先】

協和発酵工業株式会社
東京都千代田区大手町1-6-1

96.10.

状況にあることを示唆しています。これを「特異的なケース」と考えるわけにはいかないのです。

国立精神・神経センター精神保健研究所は、もともとと医学のみならず心理・社会的アプローチを重視してきました。人を統合されたものとして見ることや、人と社会の関係を見つづけてきたのがこの研究所です。それだけに、いま、もっともホットなテーマをこなしているといえるでしょう。

私はこの研究所に、30代(研究員、主任研究官)、50代(部長)、そして60代の今、3回目の勤務になりました。

学生時代から水泳と俳句が趣味でしたが、いまやこれに転勤・転職・転居を加えています。とはいえ、年齢から考えてもう止めは近いはず。研究所のさらなる発展に寄与したいと思っていますが、同窓の諸氏からの応援を期待するものです。

おくやみ

- 上山廣治 (喪禮昭7)
- 菊池孝之 (昭13)
- 星野英一 (昭13)
- 藤平健 (昭15)
- 定形千春 (昭19)
- 中西敏夫 (昭21)
- 菊地吉壽 (昭24)
- 矢沢知海 (昭26)
- 大石益光 (昭28)
- 小林晴夫 (昭38)
- 丸山徹男 (新大昭40)

おひとり
鴻 忠義博士を悼む
久富良次 (昭12卒)



鴻 忠義博士

平成9年7月21日に鴻忠義博士が逝去された。訃報を聞いた時は、寝耳に水のような驚きであった。

畏友鴻忠義博士の思い出を綴るに当り、甚だ失礼とは存じますが「君」呼ばわりすることをお許し下さい。

例えば、鴻君とは60年以上の長い付き合いであった。君のクラスは千葉医科大学入学が昭和9年で、千葉家の家紋の九曜星に因んで「九曜会」と称し、私は昭和8年入学で私共のクラスは「昭八会」と称し、一級違いであったので、学生時代から顔は知って居た。本格的に知り合ったのは、大学を卒業して伊東弥恵治教授の眼科学教室に入局してからで、私が一年先に眼科の無給副手になっていたが、昭和13年4月に鴻君は入江正君、伊藤清夫君と一

緒に入局し、御父上が千葉医専時代の眼科学教授(大正4年1月―大正8年4月) 鴻海蔵先生で、その当時本千葉町で「眼科仁山堂病院」を開業して居られ名声噴々たり、御曹司鴻忠義君は長身で貴公子然とした好青年であった。

昭和12年7月7日、中国河北省に於て、盧溝橋事件が勃発し日中戦争へ拡大、外務省の外郭団体である「同仁会」は中国の主要都市に、病院、診療班或は診療防疫班を派遣し、私は伊東教授の御指示に従って、昭和13年12月から同仁会石家荘(石門)診療防疫班に行きつて居た。

昭和14年6月に千葉医大で編成された同仁会保定診療防疫班が開設され、班長三好清夫氏(昭3 第二内科講師)、外科 波多腰彪三氏(昭4)、産婦人科 堀和平氏(昭4)、小児科 三輪栄治氏(昭7)、防疫 西村敏而氏(昭6)、皮膚科 水野春江氏(昭13)

等で、眼科は鴻忠義君(昭13)であった。その年の秋10月に、高橋信美学長が保定に視察に來られて、私は石家荘から馳せ参じて高橋学長の御温顔に接し、鴻君の眼科を見させて頂くことが出来た。ここに掲げた写真はその時私のカメラに納めたもので、原画は既に変色しかけているが、貴重な思い出である。

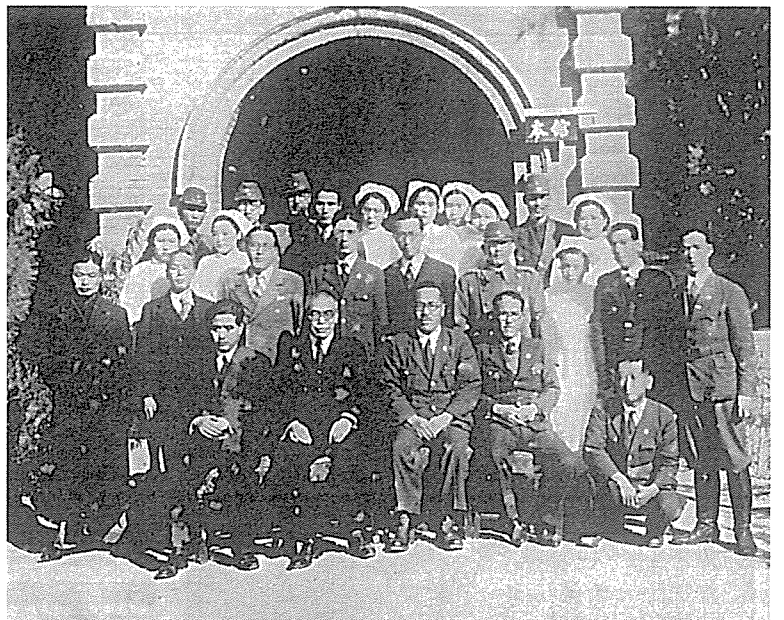
私は昭和16年3月に同仁会を辞めて千葉に帰り、結婚して一家を構えたのも束の間で、12月8日対米英宣戦布告によって太平洋戦争に突入するや、忽ち召集令状が来て、陸軍軍医として中国広州市の広東第一陸軍病院に配属され、彼の地で終戦を迎え、昭和21年5月に帰還復員することが出来た。

その間、鴻君の消息は一つ知る由も無かったが、鴻君の帰国は大分おくれで昭和23年であつたらしい。その頃、私は茨城県土浦市の国立霞ヶ浦病院眼科に奉職して、直ぐにお会する機会も無い筈、歳月は過ぎて行った。千葉医大眼科学教室に戻られてから鴻君は、臨時医専教授、大学助教授と栄進され、昭和31年に防衛大学

校教授、昭和45年に沼津市立病院院長を歴任され、昭和57年春の叙勲で勲三等瑞宝章を受章された。鴻君は非常に筆まめで、私が頂戴しただけでも次のように9冊の文集がある。

- 一、九曜(千葉医大入学50周年記念 昭和59年11月)
- 二、九曜(千葉医大卒業50周年記念) 昭和62年5月
- 三、ゐのはな追憶 昭和63年5月
- 四、一視同仁 昭和63年秋
- 五、銀海半世紀 平成元年2月
- 六、一知半解 平成元年5月
- 七、千本松原 平成2年1月
- 八、南十字星 平成3年3月
- 九、傘寿(千葉医大卒業55周年記念) 平成4年10月

- この内、一、二、三と九



同仁会保定診療防疫班 (昭和14年10月)

前列左から2人目 高橋信美学長 その右 三好清夫班長
2列目高橋学長のうしろ 鴻 忠義眼科医長 右端は久富良次

は九曜会の名で、他の5編は鴻忠義の個人名である。鴻君は同仁会保定診療防疫班から、昭和18年に済南に移られ、同仁会済南医院眼科医長兼山東省立医専眼科学教授になられて、終戦後の昭和23年まで勤められたのであった。

「一視同仁」には保定、済南時代の思い出が詳しく述べられてあり、興味深い。鴻君が昭和14年に保定に赴任するに際して千葉の教室で歓送会があり、その席上で伊東教授から「中国は信義の国であるから、中国

の人に一度信用を得ると有力な味方となってくれるから、パトロンを大切にしないさい。」とお言葉を頂いたが、パトロンとは料亭の女将或は芸者の特別の後援者のことか、三省堂の「広辞林」にもそのように書かれてあるので、伊東先生の言われる真意は何であるか、その時は良く分らなかった。保定に赴任して暫くした頃、白内障の手術をした患者さんが眼が見えるようになった感謝の印に、笛や太鼓、銅鑼の賑やかな行列の先頭に、神輿に額を載せて

病院の門を入って来た。この額は、深紅の緞子に黒いビロードで「済世爲懷」と書かれてある。この人は裕福な商人らしく、季節の品を届けてくれたり、眼科の職員を食事に招待してくれたり、商売関係の有力者を紹介してくれたたりした。

伊東先生が言われたパトロンとは、このような人だと気がついたと云う。その後、長い中国生活で何人かの中国人と限らず、日本人の知遇も大切にされた由。

昭和20年8月、終戦の時は済南にある山東省立医専の教授をしていた。8月9日の朝、出勤すると眼科に臨床実習に来ている2人の学生が、日本はポツダム宣言を受け入れて無条件降服をした。昨夜は徹夜で青天白日旗を印刷、今日の正午に掲揚される筈だという。

戦況の思わしくないことは知っていたが、ポツダム宣言など晴天の霹靂であった。果たして正午に中国国旗が一斉に揚った。矢張り負けたのかと思うと共に外地に居てこれからどうなるのだろうと不安一杯であった。

2人の学生は、鴻先生は開眼手術を済南の済南の人には感謝されているが、今度来る兵隊は重慶からで

先生のことは全く知らないで、誤って奇禍に遇うといけないから、外出の時は安全の為に自分達が護衛すると申し出た。それから学生達と戦後の生活が始まったが、先生の国は敗戦国、学生の国が戦勝国というわけ、鴻君は袴がとれたというか、学生達とは反って親密になったと云う。

終戦後長い歳月が過ぎて、山東省立医専第一回卒業の方々が、昭和57年に北京で、昭和60年に済南で、鴻教授を招待して盛大な謝恩会を開催され、卒業生達は大学教授、病院長、研究所長など

になっていて、35年振りに40年振りに感激の再会を果たされた事も述べてあり、在中国時代の長年に亘たる鴻君の御苦労が報われた美談である。

「九耀」「ゐのはな追憶」及び「傘寿」には九耀会の幹事として鴻君が、恩師、級友の談話や文章、短歌、俳句などを巧みに編集されてあり、クラスの皆様にとっては掛け替えのない宝物と言えよう。

今や幽明境を異にする鴻忠義君、君の数々の御功績を称え、合掌して安らげき御冥福を祈ります。

同窓会賞選考規定改正

現在のゐのはな同窓会賞規定と、功労彰規定が併存しているが、同窓会賞規定として、まとめて運用すべきだとの考えに基づき、今回その原案が別紙のようにまとまりました。

改正の要点は、(1)一つの規定にまとめたこと、(2)授賞者の選考は、現行規定では総会の承認まで確定しないがこれを常任理事会の審議に基づき会長が決定することと改めたことの2点です。

ゐのはな同窓会賞規定

(目的と対象)

第1条 本規定は本会会員(甲および乙)の学術及び文化諸分野における顕著な功績に対し、これを顕彰することを目的とする。受賞対象となる活動は国の内外および地域を問わない。

(顕彰の種類)

第2条 顕彰の種類は学術賞及び功労賞とする。
一、学術賞は、医学あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした会員(個人あるいはグループ)に授与する。

二、功労賞は、医学あるいは広く文化の各領域において千葉大学および千葉大学ゐのはな同窓会に多大の貢献をしたものに授与する。

功労賞の区分は以下の4種とする。
国際賞：国際交流および海外医療の向上に
教育・文化賞：教育、芸術およびスポーツなどの領域において功績顕著なもの
医療・福祉・行政賞：医療・福祉・行政の分野において優れた成績のあるもの
社会功労賞：自己の危険を顧みず人命救助したものの、公益のため私財を寄付するなど功績顕著なもの

(同窓会賞選考委員会)

第3条 本会に同窓会賞選考委員会を置く。
同窓会賞選考委員会は、会長の諮問に応じ、ゐのはな同窓会賞の候補の選考に関する事項を調査審議する。
委員会は応募者の中より学術賞五件以内・功労賞三件以内の受賞候補者を

選考する。

(選考委員)

第4条 選考委員会の委員は、ゐのはな同窓会常任理事会が6ないし8名の委員を推薦し、ゐのはな同窓会会長が委嘱する。
委員の任期は、2年とし、半期に半数を改選する。委員の再任は妨げない。ただし連続2期までとする。欠員が生じた場合、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
委員の互選により委員長をおく。

(組織および運営の細目)

第5条 前条までに定めるものの他、組織および運営の細目については常任理事会の承認を得て選考委員会が定める。

(申請応募の原則)

第6条 同窓会賞受賞希望者は、同窓会賞募集要項に基づき、所定の申請書に必要事項を記載し応募するものとする。
募集要項は、ゐのはな同窓会報に掲載する。
申請は自薦・他薦を問わない。

(受賞者の決定)

第7条 受賞者の決定は選考委員会、常任理事会の議をへて会長が行う。

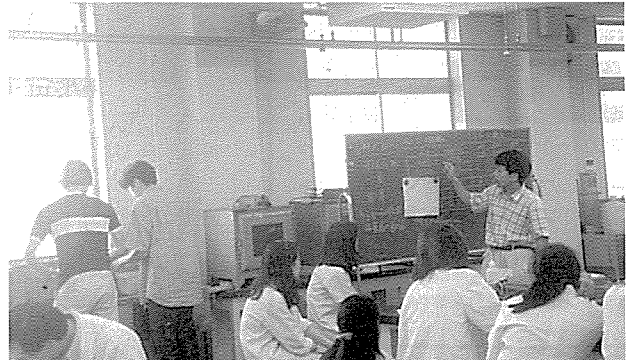
(賞状および副賞)

り楯および副賞を贈呈し、受賞対象となった業績、氏名をゐのはな同窓会総会およびゐのはな同窓会報に公表する。
(記念講演)
第9条 受賞者はゐのはな同窓会総会にて記念講演を行う。

医学部第二実習室に空調機設置

去る6月、玄鼻同窓会のご援助により、医学部第二実習室に空調機四基が設置されました。これは、平成6年の医学部大講義室に続くものです。
現在、医学部には3つの実習室がありますが、狭い中で多くの学生が実習するために室温が上がりやすく、特に7月や9月は耐え難いほどの暑さになることが稀ではありませんでした。とくに第二実習室での生化学実習はガスバーナーを頻繁に使うため「暑い実習」になりやすく、白衣を脱ぎ捨ててTシャツ一枚で作業する者まで出る始末。しかし、この度の空調機設置によりこの

問題も解決され、非常に快適な環境で実習を行えるようになり、Tシャツに捻り鉢巻で実習を行う学生は激減いたしました。後は、学生たちが「暑い実習」を行ってくれるかどうかなのです。
(学生編集委員 矢野浩二朗記)



付 則

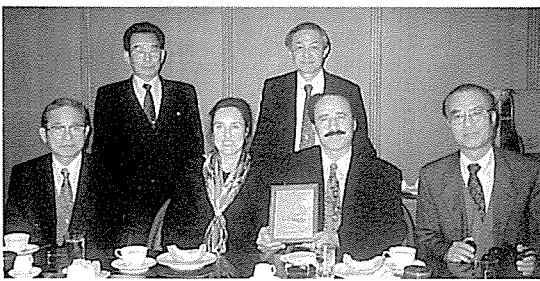
本規定は、平成9年11月26日から施行する。
平成7年6月24日制定のゐのはな同窓会賞選考規定および平成9年2月26日制定のゐのはな同窓会顕彰規定(功労賞)は廃止する。

るの は な 同窓会賞 受賞者の言葉

(前号よりの続き)

アンカラ大学医学部消化器内科主任教授
アブドゥルカディール・ドクメジ

平成9年度から設置された第一回のはな国際賞受賞者の一人であるトルコ／アンカラ大学のドクメジ教授夫妻をその受賞を祝してかねてよりお招きしていたところ、去る11月来葉された。奥様もかつての本学産科婦人科で学ばれたことがある。そこで、11月19日の夕方、医学部5階の大講義室で、産科婦人科と第一内科合同セミナーを開き、トルコの最近の医学事情に關



する有意義な講演をお二人にしていた。帰国に際し、次のような英文による感謝のメッセージが、るの は な 同窓会に託されたので、以下、その意識を掲げる。この度、るの は な 同窓会からいただいた「るの は な 国際賞」の受賞は、私にとりまして大変な名誉と存ずる次第です。私をこのような素晴らしい賞にご推挙いただいた大藤教授には心からの感謝を表したいと思ひます。今回(平成9年11月)で3度目となります千葉訪問ですが、とても楽しみにしております。

私が文部省の留学生として初訪問して以来18年が経ちます。大阪外語大で5ヵ月間日本語を勉強した後、一九七九年9月に千葉に参りました。当時の奥田教授は私を大藤教授の指導の下に配属して下さいました。このときから、日本とトルコの医学の間に、とりわけ消化器病分野における協力関係が築かれ、現在に至るまで多数のトルコ人医師がこの第一内科で研修し

ております。この間、奥田教授、大藤教授、税所教授、小俣教授、江原助教はトルコを訪れ、数々の講演を行って下さいました。

私の感謝の意は言葉に尽くせぬものがありますが、この度、るの は な 同窓会より賞をいただきましたことは、両国間の更なる将来への研究協力への励みとして大変感謝申し上げておりますことを重ねて申し添える次第です。

一九九七年11月23日

(税所宏光 記)

平成9年度 第二回常任理事会

日時

平成9年11月26日(水)

16時〜17時30分

場所

ペリエホール 扇の間

出席者

井出会長、加納、渡辺、近藤各副会長、萩原、大藤各参与、国井、笠川各監事、山上、沖、貫洞、茂又、長沢、越川、小幡、柴崎、香田、佐藤、嶋田、増田、伊藤、木内、中島、鈴木、矢野各常任理事

議題

一、るの は な 同窓会賞選考規定改正の件
るの は な 同窓会賞規定と功労賞規定が併存して

いるが、これを一本化する改正案が承認され、直ちに施行されることになった。

二、学生用図書購入のための特別助成の件

臨牀カリキュラムの改革によりチュートリアル制が導入されたが、亥鼻分館の参考書不足が指摘され、早急な改善が求められている。支援依頼があったことから、当面一〇〇万円を援助する事が承認された。

三、るの は な 同窓会賞選考委員の改選の件

選考委員の任期満了に伴い、規定により半数が改選された。新しい委員は、小幡裕(昭28)、大藤正雄(昭29)、浜野恭一(昭33)、長崎護(昭33)、嶋田裕(昭35)、服部孝道(昭42)、西野卓(昭47)、矢野明彦(昭47)の各氏である。

四、国際学術交流講習会への援助について
少額の援助が承認された。

報告

一、予算の執行状況、会報の発行状況について報告があり、会費の納入への協力を呼びかけることになった。

編集後記

新年おめでとうございませう。今年も御投稿宜しくお願い申し上げます。

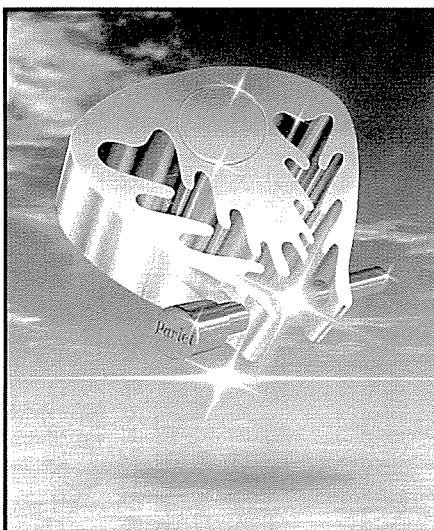
この同窓会報になってから、第1号編集発行の中心になったのは、昭和34年5月1日、昭和36年卒業の黒田健昭、下鳥隆生、末吉貴爾、松本生の4人衆です。黒田君を中心に「新聞を作りたい」熱意と、当時同窓会広報担当小林龍男教授の「同窓生に会報を」のお考えがドッキングして出来

上がったものでした。以来号を重ね、本紙は歴代編集長以下の御努力で益々充実の一途をたどっております。最近10年間のクラス会の投稿状況を調べてみました。(以下数字は卒業年、昭和は略)5回以上投稿クラスは12、専26、31、35、36、昭和11年卒以降50年迄のうち、投稿0回は14、18、20、25、34、39、40、42、48、49、専18、専23、専24でした。

文章を書くのが苦手な幹事さんの場合、開催の月日、場所、出席者名と写真をお寄せ下さるだけでも良いと思います。クラスの皆さんの元気に活躍している事をお知らせ下さい。

不況風の吹き荒ぶ中、同じ窓の中は暖かく楽しい会報にしたいものです。

(青木謹・昭36)



指定医薬品
プロトンポンプ阻害剤
パリエット®錠10mg 錠20mg
[薬価基準収載]

〈ラベプラゾールナトリウム製剤〉

hvc
ヒューマン・ヘルスケア企業

Eisai

エーザイ株式会社
〒112-8088 東京都文京区小石川4-6-10

資料請求先:
エーザイ株式会社医薬事業部

●効能・効果、用法・用量、使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

G-L-9806

るの は な 同窓会賞受賞候補者の募集
一、学術賞(3件以内)
楯および副賞(総額150万円程度)
二、功労賞
(国際賞1件、その他各領域の功労賞若干)
しめ切り 2月27日
問い合わせ
千葉大学医学部内るの は な 同窓会事務局
(内線5026)